

特定非営利活動に関する外部評価の評価項目について

評価対象法人	特定非営利活動法人花山星空ネットワーク
評価者氏名（職名）	太田耕司（京都大学大学院理学研究科教授）
評価対象期間（年度）	2020 年度（2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日）

1 法人の事業活動、組織運営等に関する状況

（1）事業活動について

ア 事業計画等を策定しているか。

項 目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
各事業年度の事業計画は、組織的な合意形成(総会・理事会等)に沿って策定しているか。	☒	☐	☒	☐
法人の目的を達成するための中長期的計画を策定しているか。	☒	☐	☒	☐

イ 法人の目的を達成するための基幹となる事業を実施しているか。

法人自己評価		外部評価	
はい	いいえ	はい	いいえ
☒	☐	☒	☐

→ 法人自己評価及び外部評価が「はい」の場合、基幹となる事業のうち優先順位の高いものから順に 3 件程度記入。

項 目	法人全体の労力に占める事業に割く労力の割合※
事業名 天体観望会事業	30%
事業名 刊行物や HP による情報発信事業	20%
事業名 天文科学振興のための講演会等事業	20%

※ 例）総従事時間数に占める各事業の従事時間数の割合

（2）組織運営について

ア 定款に定める権能に基づき、総会で審議・意思決定が行われているか。

項 目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
定款に定める正当な招集者の範囲や方法で招集し、議案書に基づき審議を行う体制となっているか。	☒	☐	☒	☐
定款で定められた内容を審議事項として審議しているか。	☒	☐	☒	☐
決議や議事録署名人の選任、議事録の作成について定款に定める方法で行っているか。	☒	☐	☒	☐

イ 【定款で理事会の設置を定めている場合】定款に定める権能に基づき、理事会で審議・意思決定が行われているか。

項 目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
定款に定める正当な招集者の範囲や方法で招集し、議案書に基づき審議を行う体制となっているか。	☒	☐	☒	☐
定款で定められた内容を審議事項として審議しているか。また、総会の審議事項との区分は明確か。	☒	☐	☒	☐
決議や議事録署名人の選任、議事録の作成について定款に定める方法で行っているか。	☒	☐	☒	☐

ウ 監事による監査は適正に行われているか。

項 目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
監事はその法人における特別な立場を理解し、第三者性及び公正性が確保されているか。	☒	☐	☒	☐
監事は法人の理事や職員を兼務していないか。	☒	☐	☒	☐
監事は定款に定める職務を執行しているか。	☒	☐	☒	☐
予算・決算書の作成者が、監査まで行っていないか。	☒	☐	☒	☐

(3) 情報公開について

法人に関する情報を公開しているか。

項 目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
活動の状況や法人運営に係る情報をホームページ等の情報開示ツールで発信しているか。また、適時に更新しているか。	☒	☐	☒	☐
活動の報告等を会報誌等で情報発信しているか。	☒	☐	☒	☐
法定の閲覧書類（事業報告書等、役員名簿、定款等）はいつでも閲覧できる状態か。	☒	☐	☒	☐
事業報告書等の記載内容は、外部に対して理解してもらえるように工夫※して作成されているか。	☒	☐	☒	☐

※例：概要の記載や、写真やデータなどを用いたレイアウト等、読み手に対して内容を分かりやすく伝える工夫

(4) コンプライアンス（法令遵守等）について

コンプライアンス（法令遵守等）の観点から組織として取組を推進しているか。

項 目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
事業・活動に関連する法令※を把握し、遵守しているか。	☒	☐	☒	☐
重要な事項や個人情報を含むデータ・書類等のリスクマネジメントを行っているか。	☒	☐	☒	☐

※対象となる法令：特定非営利活動促進法，登記に関する法令（組合等登記令），税に関する法令（法人税法等），労務に関する法令（労働基準法等），事業ごとに適用される法令（例：介護保険制度に基づくサービス提供←介護保険法の適用）など

(5) 外部評価について

活動内容を評価し、改善する仕組みを有しているか。

項 目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
これ以前に外部評価を受けたことがあるか。	☒	☐	☒	☐
外部評価を受けた結果を、理事会等で審議する機会を設ける等、改善する機能を有しているか。	☒	☐	☒	☐

2 法人の事業活動に関する所見

※ 活動の意義・成果等、広く社会に対して活動の成果を発信しているか、地域団体等の他団体との連携の状況など

(1) 活動の意義

(イ) 天体観望会、(ロ) 天体観測体験教室、(ハ) 刊行物や HP による情報発信・提供、(ニ) 天文科学振興の為の講演会の 4 事業を中心に、活動を継続している。20 年度は新型コロナウイルス感染症拡大のために、対面での観望会・講演会が一部中止となった。このため、観望会をオンラインで実施し、一般公開したが、通常の対面での観望会と比べ、参加者数が増加したようである。対面で開催できるようになった観望会では、参加者数を限定してコロナ感染症対策を十分に行うなど、コロナ禍の中でも様々な工夫を行ない、新しい試みに挑戦して、積極的に活動を継続したことは評価できる。その結果、オンライン配信と対面観望会共に参加者から好評を得たということである。

また、天体観測指導者養成講座についてもコロナ感染症拡大が下火になった時を選んで、前年度より募集定員を減らし、十分な感染防止対策を行なった上で二日間実施したところ、熱心な一般市民、小中高大の教員など NPO 会員以外からの参加者を得て好評であったようで、評価できる。

更に 2020 年 6 月 21 日に日本で見られた部分日食について、オンラインで行った観望会の中で安全な太陽観測法を紹介し、安全に太陽を観察するための太陽めがねを実費で配布を行ったことも意義のある活動であったといえる。

これらのことから、コロナ禍の中にあっても、引き続き社会貢献度の高い活動が行われたと、判断できる。

(2) 社会への発信状況

上記の事業の実施に当たっては、会員だけではなくホームページや新聞紙上などで広く一般市民にイベント開催情報を発信しているので、その結果、イベント参加者のうち、会員以外の市民と青少年の参加割合が 80%となっている。

このように、事業の認知度は年々市民の間に広がりを見せており、宇宙科学・自然科学に親しむ場として、多くの市民や青少年の参加が得られていると判断される。

(3) 地域団体との連携の状況

地元山科区の広報アプリ「やましなプラス+」で山科区民へ情報発信するとともに、山科区が主催する「教育・子育て分野における山科の魅力」をテーマにした座談会に積極的に参加するなど、地域との連携を深めている。

また、京都大学理科学研究科附属花山天文台の特別公開や講演会、天体観望会などのイベントにボランティアを供給して協力している。

(4) その他所見・提言

コロナ感染症が拡大している現状を踏まえ、それを防止するために、対面での天体観望会、講演会が開催できない状況が続いているので、昨年度に引き続きネットによるオンライン天体観望会・講演会の実施などの工夫を期待したい。

3 法人の組織運営に関する所見

※ 財務管理の透明性、組織体制の状況など

(1) 財務管理の透明性

事業報告書、会計収支計算書、財産目録、貸借対照表などがホームページ上に公開されており、透明性が保たれている。

(2) 組織体制の状況

(イ) 理事会の開催について

2020 年度には、第 49 回（4 月 25 日）、第 50 回（10 月 4 日）、第 51 回（12 月 13 日）、第 52 回（3 月 10 日）と 4 回の理事会が開催され、議事録も作成されており、理事会は正常に機能しているといえる。

(ロ) 総会の開催について

2020 年度には、第 13 回通常総会（2020 年 5 月 31 日（日））が、書面表決者を含む過半数の正会員が出席して開催され、2019 年度事業報告、2019 年度会計収支報告、2020 年度事業計画、2020 年度予算計画、新役員の選出などの理事会案が承認可決されている。議事録も作成されている。

(ハ) 監事による監査について

通常総会に先立って、2 名の監事が会計収支および財産管理に関する監査を実施した上で、その結果を総会で報告している。

(ニ) その他所見・提言

今年度は約 40 万円の赤字であるが、今すぐ困るということはないかもしれないが、今後も続くとなるとインパクトは大きいと思われるので、注視していきたい。

《評価対象法人記入欄》

4 外部評価結果への対応状況

外部評価により提言・指摘等を受けた事項に対する対応状況（今後対応する場合は対応予定）

提言・指摘等を受けた事項	対応状況又は対応予定
コロナ感染症が拡大している現状を踏まえ、それを防止するために、対面での天体観望会、講演会が開催できない状況が続いているので、昨年度に引き続きネットによるオンライン天体観望会・講演会の実施などの工夫を期待したい。	昨年度からコロナ感染症対策として、対面での天体観望会が実施できない状況なので YouTube 配信によるオンライン観望会を実施している。2021 年度は 5 月 3 日（月）「太陽」、5 月 22 日（木）「月」にオンライン観望会を実施している。また、講演会は ZOOM によるオンライン講演会を 6 月 6 日（日）に実施した。今後も感染状況をみて対応をしていきたい。
今年度は約 40 万円の赤字であるが、今すぐ困るということはないかもしれないが、今後も続くとなるとインパクトは大きいと思われるので、注視していきたい。	会報の広告掲載の獲得、賛助会員入会の勧誘、寄付金募集によって収入を増やし、赤字が減少するよう努力したいと考えている。

備考（審査委員会のコメント）

コロナ禍において、法人の活動内容の発信や地域交流の観点からも、地域団体と積極的に連携されていることを評価したい。 また、オンラインを活用して事業を継続しつつ、赤字解消に向けて収益を確保するための取組を積極的に行われていることは高く評価したい。 コロナの影響が今後も続いていくことが想定されるため、必要に応じて、中長期的な観点で収益を確保するための取組についても検討されたい。
--